

東藤島小学校 いじめ防止基本方針

平成31年4月1日 改定

前文

いじめは、いじめを受けた児童の教育を受ける権利を著しく侵害し、その心身の健全な成長および人格の形成に重大な影響を与えるだけでなく、その生命または身体に重大な危険を生じさせるおそれがあります。いじめをなくすには、「いじめは絶対に許されない」「いじめは卑怯な行為である」ことを児童が十分に理解することが大切です。

この基本方針は、本校におけるいじめ防止に係る基本的理念および責務を明らかにするとともに、いじめ防止および解決を図るための基本となる事項を定めることにより、児童が安心して生活し、学ぶことができる環境をつくるためのものです。

—福井県いじめ防止基本方針より—

1 いじめの防止等の対策に関する基本理念

- (1) 本校は、一人ひとりが互いの人格の尊厳を大切に、相互に尊重し合う社会を実現するため、児童が自分自身を大切に、他者を思いやり、互いに助け合う「心の教育」と、そうした心に従い、勇気をもって行動できる人として育てることを重視します。
- (2) 本校は、すべての児童が、まず、どんなことがあってもいじめを行わないこと、いじめを認識しながらこれを放置しないこと、いじめが、いじめられた児童の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為であることについて、ロールプレイ等の指導で、十分に理解できるように努めます。
- (3) 本校は、児童が安心して生活し、学習その他の活動に心豊かに取り組むことができるよう、いじめをなくすことを目的に、市、市教育委員会、家庭、地域の関係者と連携して、いじめの防止等の対策に全力で取り組みます。

2 いじめの定義

「いじめ」とは当該児童と一定の人間関係にある他の児童が行う心理的または物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）により、当該行為の対象となった児童が心身の苦痛を感じているものを指します。また、「けんかやふざけ合い」をいじめから除外せず、被害児童の感じる被害生の着目し、いじめに該当するか否かを判断します。

3 いじめの防止等のための具体的取組み

(1) 「思いやりや助け合いの心をもって行動できる」子どもを育てる教育

○よさを認め、自信を育てる教育

児童の適切な行動を認め、褒め、児童が自己肯定感を高めていけるよう努めます。一人ひとりが自己肯定感を高めていくことで、互いのよさを認め合い、尊重し合います。また、結果だけでなく取り組む姿勢や過程を認めることで、困難をも乗り越えていく活力と強い心を与え、新しいことにチャレンジしていく意欲を引き出していきます。

○人権教育の推進

人権教育を計画的に進め、発達障害のある児童への理解等、自分だけでなく、他の人の大切さも認めることができる態度を育てます。障害をもった人の話を聞いたり、ふれあったりして障害をもつ人への理解や思いやりの心を育てます。

○体験活動の推進

集団宿泊体験やたてわり活動・ボランティア活動・異学年や地域の人等、異年齢の交流活動等を通して児童の絆を強め、お互いに認め合い助け合う心を育てます。

○道徳教育の推進

私たちの道徳や福井県版心のノートを活用し、発達段階に応じた指導を計画的に行うことにより、思いやりの心や認め合い学び合う心、感謝の心を育てます。体験活動と道徳の時間を関連させて行うことで、内面的自覚が深まり、道徳的実践力につながるよう努めます。

中学校区教育の中に道徳教育を推進する部会（心づくり部会）を設け、4つの小中学校が連携を図りながら、思いやりの心の育成に努めます。

- 規範意識の醸成
発達段階に応じて、幼少期から規範意識の醸成に努めるとともに、児童や保護者に対するいじめの未然防止に係る取り組みを促します。

(2) いじめの未然防止

- 授業改善
すべての児童にとって、分かりやすい授業のあり方について、公開授業や授業研究を行い、児童が楽しく学べる授業づくりに努めます。
- いじめの起きない学校・学級づくり
縦割り班活動や異年齢交流活動を行い、児童が互いの良さを知り、心を通わせて活動する機会をもちます。また、児童が安心して過ごせる「心の居場所づくり」や児童が主体となって互いに認め合い励ましあう「絆づくり」を進めます。
- 児童の主体的活動の充実
学級活動や児童会活動等を活用して、児童の主体的な活動によるいじめ防止等の取り組みを推進します。
- グループワーク・エンカウターの活用
スクールカウンセラーによる、グループワークやエンカウターを通して、思いやりの気持ち、協力、聞く姿勢等、仲間づくりのスキルを身につかせます。その後、担任と面談を行い、情報交換しながら児童理解を深めます。
- 気がかりな児童の共通理解
毎月定例の職員会議にて、気がかりな児童の情報を全職員で共通理解し、いじめの被害者や加害者になる可能性のある児童の支援計画を立てます。
- 全校教育相談週間
全校児童が、担任と個別に悩みや友達関係について話をする機会を教育相談週間として年2回設け、些細なことでも担任に気軽に相談できる雰囲気醸成します。
- 地域に開かれた学校
「開かれた学校」の観点に立ち、いじめへの対処方針や年間指導計画等、いじめ防止策に関する情報を積極的に公表し、保護者や地域住民等の理解や協力を求めます。
- 学校評価への位置づけ
学校評価において、いじめだけでなく教育活動全体が機能しているかを確認し、取組の改善に努めます。
- インターネットや携帯電話等に関する指導
情報モラル教育として、インターネットや携帯電話等の正しい利用についての呼びかけや意識付けを行い、保護者に対しても家庭でのルールづくり等の啓発を行います。
- 家庭との連携
児童が「人のいやなことを言わない、いやなことをしない」を意識し、よりよい自分に向上できるよう学校評価のアンケート項目に設定し、学校だけでなく、家庭にも取り組みを促します。また、学校生活の様子について、児童と話す機会をもつよう保護者に呼びかけます。
- 地域との連携
本校では、毎日の登下校で、見守り隊が付き添っていただく活動を継続しています。地域の中で子どもを育てるといふ雰囲気をもっている利点を生かし、地域と連携を図りながら思いやりの心の育成を図ります。
児童が区民体育祭・ふれあいサマーデー・地区文化祭・健康ウォーク大会等の地域の行事に進んで参加することを推進し、地域の中で児童と地域の人の関わりが深まるよう働きかけます。
- 特別な配慮が必要な児童について
以下の児童を含め、特別な配慮が必要な児童に対する特性を踏まえた適切な支援を行います。
 - ・発達障害等の障害のある児童
 - ・海外から帰国した児童や外国人の児童、国際結婚の保護者をもつなどの外国につながる児童
 - ・性同一性障害や性的指向・性自認に係る児童
 - ・東日本大震災で被災した児童または原子力発電所事故により避難している児童

(3) いじめの早期発見

- 積極的ないじめの認知
児童の表情やしぐさをきめ細かく観察するとともに、わずかな変化に対してもいじめの兆候ではないかとの疑いを持ち、積極的にいじめを認知するよう努めます。また、認知した情報を確実に共有できるよう体制の強化にも努めていきます。
- 自己チェックの活用
児童が日々の生活を振り返るための自己チェックを行い、それを学級担任が確認することにより、いじめ等の早期発見に努めます。
- アンケートの実施
年に2回、児童のみならず保護者に対してのいじめの実態調査を行い、いじめ等の問題の早期発見に努めます。
- 教育相談体制の充実
学級担任による定期的な個別面談を通して、学習や人間関係の悩み等を聞き取ります。また、適切な助言と学級全体への働きかけを行い、好ましい人間関係の構築を図ります。個別面談等を受け必要が生じた際は、聞き取り調査を実施します。
- 家庭や地域との連携
家庭訪問や電話連絡などを通して、日ごろから保護者との情報交換を密にするとともに地域の住民や関係団体との連携を進めることにより、家庭や地域における児童の変化を見逃さず、いじめ等の早期発見に努めます。

(4) いじめの事案対処

- 「いじめ対応サポート班」による対応
特定の教職員で抱え込まず速やかに情報を共有するとともに、「いじめ対応サポート班」による立案、対応により被害児童を守ります。また、特定の教員が抱え込むことなく情報共有し、組織的な対応につなげます。
- 被害・加害児童への対応
いじめを受けたあるいは報告した児童の心のケアを行い、安全を確保するとともに、いじめたとされる児童に対して事情を確認した上で、適切な指導を行います。
- 外部人材の活用と関係機関との連携
必要に応じて、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、スクールサポーター等の外部専門家、警察や児童相談所、地方法務局、医療機関、民生児童委員等の関係機関と連携を取りながら、早期解決に向けた最善の方法を講じます。

(5) いじめによる重大事態への対処

- いじめにより、「生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑い」や、「相当の期間、学校を欠席することを余儀なくされている疑い」があるときは、次の対処を行います。
 - ・重大事態が発生した旨を市教育委員会に速やかに報告します。
 - ・学校が調査主体になる場合は、調査組織の設置、事実関係調査、関係保護者への情報提供、市教育委員会への調査結果の報告を速やかに行います。
 - ・市が調査主体になる場合は、事実関係を明確にするための調査に協力します。

4 いじめの防止等のための組織

(1) いじめ対策委員会

いじめの防止等に関して指導の方策等を協議するため、次の機能を担う「いじめ対策委員会」を常設し、定期的を開催します。

(構成員) 校長、教頭、生徒指導主事、養護教諭、教育相談担当、スクールカウンセラー等

(活 動)

- ・未然防止を中心とした、いじめ問題対応の年間行動計画の作成
- ・「思いやりや助け合いの心をもって行動できる」子どもを育てるための具体的な活動の計画、実践、振り返り
- ・いじめが起きない学校・学級づくりのための「心の居場所づくり」についての協議
- ・児童間の「絆づくり」のための計画的な教育活動の実践
- ・いじめ発見のためのチェックシステムの工夫と迅速な情報交換、連絡体制づくり
- ・校内研修や学級活動のための資料収集や資料作成
- ・計画的なアンケート調査や個人面談の計画
- ・学校におけるいじめ問題への取組みの点検

(2) いじめ対応サポート班

いじめが起きたとき、次の機能を担う「いじめ対応サポート班」を設置し、いじめの早期解決に向けた取組みを行います。

(構成員) 生徒指導主事、学年主任、担任、教育相談担当、養護教諭
スクールカウンセラー等

(活 動)

- ・ 当該いじめ事案の対応方針の決定
- ・ 個別面談による情報収集
- ・ 継続的な支援
- ・ 保護者や地域との連携
- ・ スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の外部人材や警察、児童相談所などとの連携

いじめ対策委員会（常設）

校長

連絡：担任・児童・保護者

教頭

いじめの情報

生徒指導主事、教育相談担当者、養護教諭、スクールカウンセラー等

- 学校基本方針に基づく取組みの実施
- 具体的な年間計画の作成・実行・検証・修正
- いじめの相談・通報の窓口
- いじめの疑いに関する情報や児童の問題行動等に係る情報の収集と記録、共有
- いじめの疑いに係る情報があった時の対応
 - ・いじめの情報の迅速な共有
 - ・関係のある児童への事実関係の聴取
 - ・指導や支援の体制・対応方針の決定と保護者との連携
- いじめ対応サポート班立ち上げ

認知

外部人材

- ・スクールカウンセラー
 - ・スクールソーシャルワーカー
- 関係機関
- ・教育委員会
 - ・PTA
 - ・警察
 - ・児童相談所
 - ・地方法務局
 - ・医療機関
 - ・民生児童委員 等

報告
連絡
相談

窓口
・教頭

関係教員

- ・担任
- ・教科担任等

いじめ対応サポート班（特設）

生徒指導主事

担任・教育相談担当・養護教諭・スクールカウンセラー等

- いじめ対策委員会の指導方針や指導方法を共有
- 事実確認作業
- 関係児童への対応
- 関係保護者への対応
- 関係機関との連携
- *必要に応じて、警察への協力要請
- 事実内容の報告と今後の具体的な指導・支援の報告

5 いじめ対策の年間行動計画

【いじめ対策の年間行動計画】〔4～6月〕

東藤島小学校

	教員の動き等	児童の活動等					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
4月	いじめ対策委員会 ・基本方針確認 ・年間計画策定 ↓ 職員会議 ・年間計画周知 ・教員の意識点検 ↓ PTA総会 ・基本方針の公表 いじめ対応サポート班 ・起きたときに即対応	いじめの自己チェック たてわり班編制 ・配慮を要する児童を考慮した班編制 ・5、6年生のリーダー性の育成 ・5、6年生の絆づくり たてわり班活動スタート ・自主的な活動 ・リーダーの存在感 ・絆づくり 1年生を迎える会 ・各学年リーダー育成 ・絆づくり ・自主的な計画					
	中学校区研究推進委員会 ・児童、生徒の心づくり計画策定 ・児童、生徒の交流活動計画策定 職員会議 ・気になる児童の共通理解 いじめ対応サポート班 ・起きたときに即対応	見守り隊との初顔合わせ ・地域との絆づくり 野菜づくり(2年) ・地域との絆づくり ・自主的な活動 田植え体験(4年) 高学年リーダー育成 修学旅行(6年) ・自主的計画 ・絆づくり 春季校内体育大会(地区体育祭) ・地域との絆づくり ・こども園との交流					
6月	いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握 授業研究 ・授業改善 ・学習規律 子どもの居場所、絆づくりを意識した公開授業の実施。 職員会議 ・気になる児童の共通理解	アンケート調査 全校教育相談週間 ・担任による、児童の悩み事や友達関係のカウンセリング 宿泊学習(5年) ・絆づくり ふれあいコンサート(6年) ・絆づくり ・異校種との交流 大東中学校区 ふれあいモーニングデー(挨拶運動) ・地域との絆づくり ・異校種との交流 ・高学年リーダー養成 たてわり遊び ・絆づくり ・リーダーの存在感 ・絆づくり					

	教員の動き等	児童の活動等					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
10月	<p>いじめ対応サポート班 ・起きたときに即対応</p> <p>いじめ対策委員会 ・1学期の振り返り</p> <p>職員研修 ・特別支援教育</p> <p>職員会議 ・気になる児童の共通理解</p>	園との交流学習(1年)		お年寄りとの交流学習(3年)			
		<p>地区文化祭参加 ・合唱発表 ・地域と進める体験事業発表</p> <p>健康ウォーク大会 ・地域との絆づくり</p>					
11月	<p>いじめ対策委員会 ・アンケート調査結果分析、状況把握</p> <p>授業研究</p> <p>職員会議 ・アンケートや個人面談の結果から児童の共通理解</p>	<p>アンケート調査</p>					
		<p>全校教育相談週間 ・担任による、児童の悩み事や友達関係のカウンセリング</p>					
		<p>大東中学校区 ふれあいモーニングデー (挨拶運動)</p>					<p>携帯安全教室 (5年)・ネットモラル、犯罪等</p>
		<p>道徳公開授業 ・全学年、保護者や地域の方への道徳授業の公開</p>					
		<p>感謝の集い ・配膳員、施設技師、栄養教諭への感謝と思いやりの育成</p>					
12月	<p>保護者懇談会 ・保護者との連携強化 ・児童の状況説明</p> <p>職員会議 ・気になる児童の共通理解 ・冬休み中の指導体制策定</p>	<p>いじめの自己チェック</p>					
		<p>人権教育 ・全校道徳指導 テーマ「思いやり」「命の大切さ」</p>					
		こども園との交流学習(1年)					
		<p>グループワークとエンカウンター (1~3年) ・スクールカウンセラーによる、友達づくりのスキル育成</p>				<p>男女共教育前授業(5年)</p>	

	教員の動き等	児童の活動等					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
1月	<p>いじめ対策委員会 ・定期的な状況把握</p> <p>職員会議 ・気になる児童の共通理解</p>	<p>いじめの自己チェック</p> <p>昔遊び体験(1年) ・地域との絆づくり</p> <p>グループワークとエンカウンター(4~6年) ・スクールカウンセラーによる、友達づくりのスキル育成</p> <p>見守り隊・ボランティアさんへのありがとう集会 ・地域の絆づくり ・感謝の心の育成</p>					
2月	<p>いじめ対策委員会 ・定期的な状況把握</p> <p>職員会議 ・気になる児童の共通理解</p>	<p>わくわく交流デー(1年) ・新たな絆づくり ・異校種との交流</p> <p>中学校体験入学(6年) ・新たな絆づくり ・異校種との交流</p> <p>6年生を送る会準備 ・感謝の心 ・自主的な計画</p>					
3月	<p>いじめ対策委員会 ・年度の振り返り ・新年度へ向けて計画見直し</p> <p>↓</p> <p>職員会議 ・課題確認 ・計画確認</p> <p>卒業・進級認定会 ・気になる児童の共通理解</p> <p>職員会議 ・春休み中の指導体制策定</p>	<p>6年生を送る会 ・感謝の心 ・次の学年の自覚</p> <p>校内奉仕活動(6年) ・学校地域に感謝して</p>					